

第6 無窓階の取扱い◆

- 1 無窓階は、床面積に対する開口部の割合、開口部の位置（床面からの高さ及び空地）及び開口部の構造により決定すること。

無窓階以外の階の判定は、省令第5条の5によるほか細部については、次により運用するものであること。

（1）床面積に対する開口部の割合

省令第5条の5第1項に定める床面積に対する避難上及び消火活動上有効な開口部の割合は、次によること。

ア 11階以上の階

直径50cm以上の円が内接することができる開口部の面積の合計が当該階の床面積の30分の1を超える階であること。

イ 10階以下の階

アの割合と同様であるが、アの開口部に、直径1m以上の円が内接することができる開口部又はその幅及び高さがそれぞれ0.75m以上及び1.2m以上の開口部（以下「大型開口部」という。）が2以上含まれているものであること。

（2）開口部の位置

ア 次のすべてに適合する踏台を設けた場合は、省令第5条の5第2項第1号の「床面から開口部の下端までの高さは1.2m以内」のものとして取り扱うことができる。

（ア）不燃材料で造られ、かつ、堅固な構造であること。

（イ）開口部が設けられている壁面と隙間がなく、床面に固定されていること。

（ウ）高さは、おおむね30cm以内、奥行は30cm以上、幅は開口部の幅以上であること。

（エ）踏台の上端から開口部の下端まで1.2m以内であること。

（オ）避難上支障のないように設けられていること。

イ 次に掲げる空地等は、省令第5条の5第2項第2号の「通路その他の空地」として取り扱うことができる。

（ア）国又は地方公共団体等の管理する公園で、将来にわたって空地の状態が維持されるもの。

（イ）道又は道に通じる幅員1m以上の通路に通じることができる広場（建築物の屋上、階段状の部分等）で避難及び消火活動が有効にできるもの。

（ウ）1m以内の空地又は通路にある樹木、塀及びその他の工作物で避難及び消火活動に支障がないもの。

（エ）傾斜地及び河川敷で避難及び消火活動が有効にできるもの。

（オ）周囲が建物で囲われている中庭等で当該中庭等から通じる通路等があり、次のすべてに適合するもの（第6-1図）。

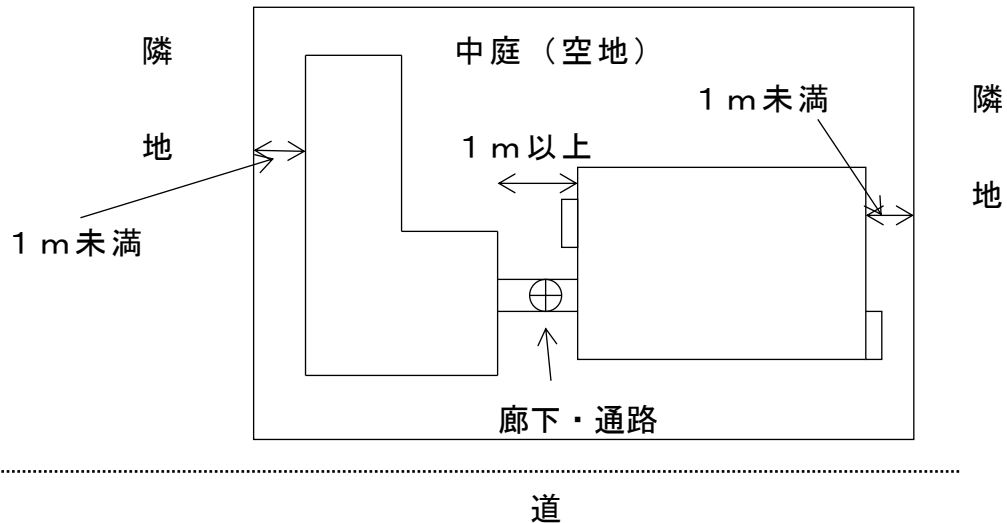
a 中庭から道に通じる出入口の幅員は、1m以上であること。

b 中庭から道に通じる部分は、廊下又は通路であること。

c 中庭から道に通じる部分の歩行距離は、20m以下であり、かつ、直接見通しができるものであること。

d 道に面する外壁に2以上の大型開口部があること。

e 道に面する外壁の開口部で必要面積の2分の1以上を確保できること。



第 6 - 1 図

(3) 開口部の構造

次に掲げる開口部は、省令第 5 条の 5 第 2 項第 3 号の「内部から容易に避難することを妨げる構造を有しないものであり、かつ、外部から開放し、又は容易に破壊することにより進入できるもの」として取り扱うことができる（第 6 - 1 表）。

ア はめ殺しの窓等

(ア) 普通板ガラス (旧 JIS R 3201)、フロート板ガラス (JIS R 3202)、磨き板ガラス (JIS R 3202)、型板ガラス (JIS R 3203)、熱線吸収板ガラス (JIS R 3208) 又は熱線反射ガラス (JIS R 3221) (ガラスの厚さが 8 mm 以下のもの (厚さが 6 mm を超えるものは、ガラスの大きさがおおむね 2 m²以下かつガラスの天端の高さが、設置されている階の床から 2 m 以下のものに限る。))

(イ) 強化ガラス (JIS R 3206) 又は耐熱板ガラス (ガラスの厚さが 5 mm 以下のもの)

(ウ) ポリエチレンテレフタレート (以下「PET」という。) 製窓ガラス用フィルム (JIS A 5759 に規定するもの。以下同じ。) のうち、多積層 (引裂強度を強くすることを目的として数十枚のフィルムを重ねて作られたフィルムをいう。以下同じ。) 以外で、基材の厚さが 100 μm 以下のもの (内貼り用、外貼り用は問わない) を a 又は b のガラスに貼付したもの

(エ) 塩化ビニル製窓ガラス用フィルムのうち、基材の厚さが 400 μm 以下のもの (内貼り用、外貼り用は問わない) を a 又は b のガラスに貼付したもの

(オ) (ア) 又は (イ) に金属又は酸化金属で構成された薄膜を施した低放射ガラス (通称 Low-E 膜付きガラス)

(カ) PET 製窓ガラス用フィルムのうち、多積層以外で、基材の厚さが 100 μm を超え 400 μm 以下のもの (内貼り用、外貼り用は問わない) を (ア) 又は (イ) のガラスに貼付したもので、バルコニー、屋上広場等の破壊作業のできる足場が設けられているもの

(キ) PET 製窓ガラス用フィルムのうち、多積層で、基材の厚さが 100 μm 以下のもの (内貼り用、外貼り用は問わない) を (ア) 又は (イ) のガラスに貼付したもので、バルコニー、屋上広場等の破壊作業のできる足場が設けられているもの

- (ク) 複層ガラス (JIS R 3209) で、その2枚以上の材料ガラスがそれぞれ (ア) から (キ) までのいずれかにより構成されているもの
- (ケ) (ア) から (ク) まで以外であって、窓を容易にはずすことができるもの
- イ 屋内でロックされている窓
- (ア) 普通板ガラス、フロート板ガラス、磨き板ガラス、型板ガラス、熱線吸収板ガラス又は熱線反射ガラス入り窓等で、当該ガラスを一部破壊することにより外部から開放することができるもの (ガラスの厚さが 8 mm 以下のもの。ただし、厚さが 6 mm を超えるものは、ガラスの大きさが概ね 2 m² 以下かつガラスの天端の高さが、設置されている階の床から 2 m 以下のものに限る。)
- (イ) 網入板ガラス (JIS R 3204) 又は線入板ガラス (JIS R 3204) 入り窓等で、当該ガラスを一部破壊することにより外部から開放することができるもの (ガラスの厚さが 6.8mm 以下のもの)
- (ウ) (イ) 以外の網入板ガラス又は線入板ガラス入り窓等で、当該ガラスを一部破壊することにより外部から開放することができるもののうち、バルコニー、屋上広場等の破壊作業のできる足場が設けられているもの (ガラスの厚さが 10mm 以下のもの)
- (エ) 強化ガラス又は耐熱板ガラス入り窓等で、当該ガラスを一部破壊することにより外部から開放することができるもの (ガラスの厚さが 5 mm 以下のもの)
- (オ) 合わせガラス (JIS R 3205) 入り窓等で、当該ガラスを一部破壊することにより外部から開放することができ、窓に設置される鍵 (クレセント錠又は補助錠をいう。) は 2 以下で、別個の鍵を用いたり暗証番号を入力しなければ解錠できないような特殊なクレセントやレバーハンドル等が設置されていないもの (フロート板ガラス 6.0mm 以下+ポリビニルブチラル (以下「PVB」という。) 30mil 以下+フロート板ガラス 6.0mm 以下、網入板ガラス 6.8mm 以下+PVB 30mil 以下+フロート板ガラス 5.0mm 以下、フロート板ガラス 6.0mm 以下+エチレン酢酸ビニル共重合体中間膜 (以下「EVA中間膜」という。) (株式会社ブリヂストン製のものに限る。以下同じ。) 0.4mm 以下+PETフィルム 0.13mm 以下+EVA中間膜 0.4mm 以下+フロート板ガラス 6.0mm 以下、フロート板ガラス 6.0mm 以下+EVA中間膜 0.8mm 以下+フロート板ガラス 6.0mm 以下、網入板ガラス 6.8mm 以下+EVA中間膜 0.4mm 以下+PETフィルム 0.13mm 以下+EVA中間膜 0.4mm 以下+フロート板ガラス 5mm 以下、網入板ガラス 6.8mm 以下+EVA中間膜 0.8mm 以下+フロート板ガラス 5mm 以下)
- (カ) (オ) 以外の合わせガラス入り窓等で、当該ガラスを一部破壊することにより、外部から開放することができ、窓に設置される鍵 (クレセント錠又は補助錠をいう。) は 2 以下で、別個の鍵を用いたり暗証番号を入力しなければ解錠できないような特殊なクレセントやレバーハンドル等が設置されていないもののうち、バルコニー、屋上広場等の破壊作業のできる足場が設けられているもの (フロート板ガラス 5.0mm 以下+PVB 60mil 以下+フロート板ガラス 5.0mm 以下、網入り板ガラス 6.8mm 以下+PVB 60mil 以下+フロートガラス 6.0mm 以下、フロート板ガラス 3.0mm 以下+PVB 60mil 以下+型板ガラス 4.0mm 以下)
- (キ) PET製窓ガラス用フィルムのうち、多積層以外で、基材の厚さが 100 μ m 以下のもの (内貼り用、外貼り用は問わない) を (ア) から (カ) までのいずれかのガラスに貼付したもの
- (ク) 塩化ビニル製窓ガラスフィルムのうち、基材の厚さが 400 μ m 以下のもの (内貼り用、外貼り用は問わない) を (ア) から (カ) までのいずれかの

ガラスに貼付したもの

(ケ) (ア) から (カ) までのいずれかに金属又は酸化金属で構成された薄膜を施した低放射ガラス（通称 L o w - E 膜付きガラス）で、当該ガラスを一部破壊することにより外部から開放することができるもの

(コ) P E T 製窓ガラス用フィルムのうち、多積層以外で、基材の厚さが 100 μm を超え 400 μm 以下のもの（内貼り用、外貼り用は問わない）を a から d までのいずれかのガラスに貼付したもので、当該ガラスを一部破壊することにより外部から開放することができるもの

(サ) P E T 製窓ガラス用フィルムのうち、多積層で、基材の厚さが 100 μm 以下のもの（内貼り用、外貼り用は問わない）を (ア) から (エ) までのいずれかのガラスに貼付したもので、当該ガラスを一部破壊することにより外部から開放することができるもの

(シ) 複層ガラス入り窓等で、その 2 枚以上の材料板ガラスがそれぞれ (ア) から (サ) ((ウ) 及び (ウ) に (キ) から (サ) に示す加工をしたものを除く。) までのいずれかにより構成され、当該ガラスを一部破壊することにより外部から開放することができるもの

ウ 屋内でロックされている扉

(ア) イに掲げる種別のガラス小窓を有する扉で、ガラスの大きさが幅 150mm 高さ 600mm 以上あり、ガラス小窓を局部破壊し、サムターン錠を解錠できるもの

(イ) 非常解錠装置を備えている扉で屋外に面するもの

(ウ) 自動火災報知設備の火災信号により解錠する扉等で、屋内外から手動で開放できるもの

エ 軽量シャッター（JIS A 4704 で定めるスラットの板厚が 1.0mm 以下のものをいう。以下同じ。）の開口部

(ア) 煙感知器と連動により解錠した後、屋内外から手動で開放できるもの（非常電源付きのものに限る。）

(イ) 避難階又はこれに準ずる階に設けられたもので、屋外より消防隊が特殊な工具を用いることなく容易に開放できるもの

※ 避難階に準ずる階とは、屋外階段又は人工地盤等を利用して当該開口部まで容易に到達することができる階

(ウ) 共同住宅等の雨戸として設けられたもので、開口部に建基政令第 126 条の 7 第 5 号に規定するバルコニー、建基政令第 121 条第 3 項ただし書きの避難上有効なバルコニー又はこれと同等以上の面積（奥行 75cm 以上、長さが当該シャッターの幅以上有するものに限る）に規定する等の消防活動スペースが確保され、かつ、屋外より消防隊が特殊な工具を用いることなく容易に開放できるもの

オ 防火設備（シャッター）の開口部

(ア) 防災センター、警備員室又は中央管理室等常時人がいる場所から遠隔操作で開放できるもの（非常電源付きのものに限る。）

(イ) 屋内外から電動により開放できるもの（非常電源付きのものに限る。）

(ウ) 屋外から水圧によって開放できる装置を備えたもので、開放装置の送水口が 1 階にあるもの（「消火設備等認定委員会」で認定し、総務省消防庁から通知がなされたものに限る。）

カ シートシャッターの開口部

(ア) 屋外より消防隊が特殊な工具を用いることなく容易に開放できるもの

(イ) 屋内外から電動により開放できるもの（非常電源付きのものに限る。）

※ なお、有効開口部については、開放できる部分に限る。

キ 二重窓等

(ア) はめ殺しの窓等でア（ア）又は（イ）に掲げるもの

(イ) 屋内外から開放できるガラス入り窓等

(ウ) 避難階に設けられた屋内から手動で開放できる軽量シャッターとガラス入り窓等

ク 間仕切り壁を設けることにより、室内と開口部とが区画された構造のもので、開口部と相対する部分に出入口が設けられたもの（出入口は、屋内外から手動で開放できるものに限る。）

ケ 開口部と間仕切り壁等の間に通路を設け、間仕切り壁等に出入口を有効に設けたもので、次のすべてに適合するもの又はこれと同等以上に支障がないと認められるもの

(ア) 通路は、通行又は運搬のみに供され、かつ、可燃物等が存置されていないことなど常時通行に支障がないこと。

(イ) 通路及び間仕切り壁等の出入口の幅員は、おおむね 1 m 以上、高さは 1.8 m 以上として、下端は床面から 15 cm 以下であること。

(ウ) 間仕切り壁等の出入口と一の外壁の開口部との距離は、おおむね 10 m 以下であること。

コ 広告物、看板、日除け又は雨除け等を周囲に設ける開口部で、避難及び消防隊の進入に支障ないもの。

サ 避難を考慮する必要のない無人の小規模倉庫等で外壁がスレート等で造られ、内壁がなく外部から容易に破壊できる部分（消火活動上支障がない場合に限る。）

シ 開口部の有効寸法の算定は、開口部の形式等により第 6－2 表により判断するものであること。

ス 有効開口部に面する室内外の部分には、避難上又は消火活動上支障となる物品等を置かないこと。ただし、キャスター付きの什器等で容易に移動が可能であると認められるもの（コンビニエンスストアに置かれているマガジンラック等）又高さが 1.2 m 以下の棚等で、その上部が通行可能なもの（有効寸法の算定については、当該棚等の部分は含まない。）については、この限りでない。

2 その他

(1) 営業中は、省令第 5 条の 5 で定める開口部を有するが、閉店後は、重量シャッター等を閉鎖することにより無窓階となる階で、かつ、防火対象物全体が無人となる防火対象物の当該階については、無窓階以外の階として取り扱うことができる。

(2) 吹抜けのある場合の床面積及び開口部の取扱いは、次によるものとする。

ア 床面積の算定は、当該階の床が存する部分とする。

イ 開口部の面積の算定は、床が存する部分の外壁開口部の合計とする。

(3) 精神病院の階が無窓階になる場合は、消防法の一部を改正する法律（昭和 49 年法律第 64 号）附則第 4 項により消防用設備等が遡及適用されるもの限り、病室以外の部分が省令第 5 条の 5 の規定により無窓とならない当該階については、無窓階以外の階として取り扱うことができる。

(4) テント倉庫のテント部分で容易に破れるものは、有効な開口部があるものとして取り扱うことができる。

(5) 十分に外気に開放されている部分（独立したカーポート、サイクルポート、バス

- 停の上屋等及び建物の庇部分)については、床面積の算定上は当該部分を算入して行うものとされているが、無窓階の判定を行う上ではこれによらないものとする。
- (6) 夜間等無人となる防火対象物においてチェーン、南京錠等を使用して、施錠する場合は、チェーン部分等を消防隊の積載する資機材(鉄線切り等)を使用して容易に破壊が可能な場合、その部分を有効開口部及び道に通じる通路として扱うことができる。

第 6 - 1 表 ガラスの種類による無窓階の取扱い

ガラスの種類	ガラス全体の厚さ	開口部の種類	無窓階判定 (省令第 5 条の 5)			
			足場有り	足場無し		
				窓ガラス用フィルムなし	窓ガラス用フィルム A	窓ガラス用フィルム B
普通ガラス フロート板ガラス 磨き板ガラス 型板ガラス 熱線吸収板ガラス 熱線反射ガラス	厚さ 8.0mm 以下 (厚さが 6mm を超えるものは、 ガラスの大きさが概ね 2m ² 以下かつガラスの天端の高さが、設置されている階の床から 2m 以下のものに限る。)	引き違い戸	○	○	○	△
		F I X	○	○	○	×
網入板ガラス 線入板ガラス	厚さ 6.8mm 以下	引き違い戸	△	△	△	△
		F I X	×	×	×	×
	厚さ 10mm 以下	引き違い戸	△	×	×	×
		F I X	×	×	×	×
強化ガラス 耐熱板ガラス	厚さ 5.0mm 以下	引き違い戸	○	○	○	△
		F I X	○	○	○	×
合わせガラス (2 以下の鍵(クレセント錠又は補助錠をいう。)) を解錠することにより、開放することができるもの)	フロート板ガラス 6mm 以下+PVB (ポリビニルブチラール) 30mil (膜厚 0.76mm) 以下+フロート板ガラス 6mm 以下	引き違い戸	△	△	△	×
		F I X	×	×	×	×
	網入板ガラス 6.8mm 以下+PVB (ポリビニルブチラール) 30mil (膜厚 0.76mm) 以下+フロート板ガラス 5mm 以下	引き違い戸	△	△	△	×
		F I X	×	×	×	×
	フロート板ガラス 5mm 以下+PVB (ポリビニルブチラール) 60mil (膜厚 1.52mm) 以下+フロート板ガラス 5mm 以下	引き違い戸	△	×	×	×
		F I X	×	×	×	×
	網入板ガラス 6.8mm 以下+PVB (ポリビニルブチラール) 60mil (膜厚 1.52mm) 以下+フロート板ガラス 6mm 以下	引き違い戸	△	×	×	×
		F I X	×	×	×	×

ガラスの種類	ガラス全体の厚さ	開口部の種類	無窓階判定 (省令第5条の5)			
			足場有り	足場無し		
				窓ガラス用 フィルム なし	窓ガラス用 フィルム A	窓ガラス用 フィルム B
合わせガラス (2以下の鍵(クレセント錠又は補助錠をいう。) を解錠することにより、開放することができるもの)	フロート板ガラス3mm以下+PVB(ポリビニルブチラル)60mil(膜厚1.52mm)以下+型板ガラス4mm以下	引き違い戸	△	×	×	×
		F I X	×	×	×	×
	フロート板ガラス6mm以下+EVA(エチレン酢酸ビニル共重合体)中間膜0.4mm以下+PETフィルム0.13mm以下+EVA中間膜0.4mm以下+フロート板ガラス6mm以下	引き違い戸	△	△	△	×
		F I X	×	×	×	×
	フロート板ガラス6mm以下+EVA(エチレン酢酸ビニル共重合体)中間膜0.8mm以下+フロート板ガラス6mm以下	引き違い戸	△	△	△	×
		F I X	×	×	×	×
	網入板ガラス6.8mm以下+EVA(エチレン酢酸ビニル共重合体)中間膜0.4mm以下+PETフィルム0.13mm以下+EVA中間膜0.4mm以下+フロート板ガラス5mm以下	引き違い戸	△	△	△	×
		F I X	×	×	×	×
	網入板ガラス6.8mm以下+EVA(エチレン酢酸ビニル共重合体)中間膜0.8mm以下+フロート板ガラス5mm以下	引き違い戸	△	△	△	×
		F I X	×	×	×	×
倍強度ガラス	—	引き違い戸	×	×	×	×
		F I X	×	×	×	×
複層(ペア)ガラス	構成するガラスごとに本表(網入板ガラス及び線入板ガラスは、厚さ6.8mm以下のものに限る。)により評価し、全体の判断を行う。					

【備考】

- 1 ガラスの厚さの単位は、JISにおいて用いられる「呼び厚さ」の「ミリ」を用いる。
- 2 「足場有り」とは、避難階又は外部バルコニー、屋上広場等破壊作業のできる足場が設けられているものをいう。またバルコニーとは、建基政令第126条の7第5号に定める構造以上のものをいう。
- 3 「引き違い戸」とは、片開き、開き戸を含め、通常は部屋内から開放でき、かつ当該

ガラスを一部破壊することにより、外部から開放することができるものをいう。

- 4 「F I X」とは、はめ殺し窓をいう。
- 5 「耐熱板ガラス」は、耐熱板ガラス品質規格（低膨張防火ガラス、耐熱強化ガラス及び耐熱結晶化ガラス）によるものをいう。
- 6 「合わせガラス」、「倍強度ガラス」は、それぞれ JIS R 3205 及び JIS R 3222 に規定するものをいう。
- 7 「1mil」は、1/1000 インチ（約 0.0254mm）をいう。
- 8 「窓ガラス用フィルムなし」は、P E T 製窓ガラス用フィルム（JIS A 5759 に規定するもの。以下同じ。）等を貼付していないガラスをいう。
- 9 「窓ガラス用フィルム A」は、次のものをいう。
 - （1）P E T 製窓ガラス用フィルムのうち、多積層（引裂強度を強くすることを目的として数十枚のフィルムを重ねて作られたフィルムをいう。以下同じ。）以外で、基材の厚さが 100 μm （0.1mm）以下のもの（内貼り用、外貼り用は問わない）を貼付したガラス
 - （2）塩化ビニル製窓ガラス用フィルムのうち、基材の厚さが 400 μm 以下のもの（内貼り用、外貼り用は問わない）を貼付したガラス
 - （3）低放射ガラス（通称 Low-E 膜付きガラス）（金属又は酸化金属で構成された薄膜を施した低放射ガラスであること。）
- 10 「窓ガラス用フィルム B」は、次のものをいう。
 - （1）P E T 製窓ガラス用フィルムのうち、多積層以外で、基材の厚さが 100 μm を超え 400 μm 以下のもの（内貼り用、外貼り用は問わない）を貼付したガラス
 - （2）P E T 製窓ガラス用フィルムのうち、多積層で、基材の厚さが 100 μm 以下のもの（内貼り用、外貼り用は問わない）を貼付したガラス
- 11 「足場有り」欄の判定は、窓ガラス用フィルムの有無にかかわらず、すべて（窓ガラス用フィルムなし、窓ガラス用フィルム A、窓ガラス用フィルム B）同じ判定であること。
- 12 合わせガラスに用いる E V A 中間膜は株式会社ブリヂストン製のものに限る。

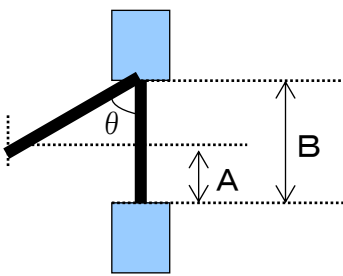
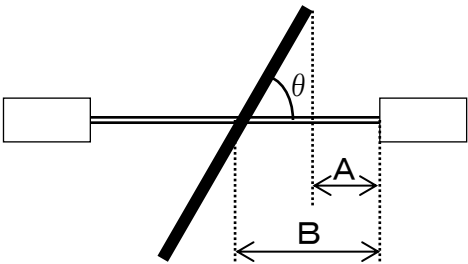
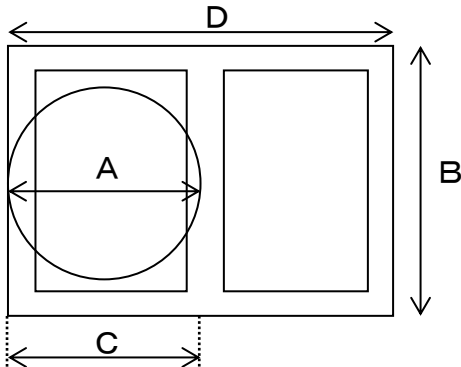
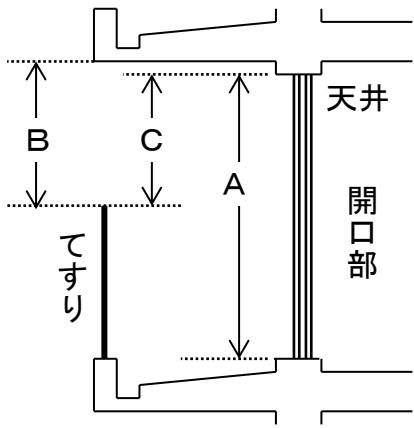
[凡例]

○…開口部として取り扱うことができる。

△…ガラスを一部破壊し、外部から開放できる部分（引き違い戸の概ね 1/2）

×…開口部として取り扱うことができない。

第6-2表

	型 式	判 断
突き出し窓	 <p>(注) θは、最大開口角度（0度から90度）</p>	<p>Aの部分とする。</p> <p>(注) $A = B (1 - \cos \theta)$</p>
回転窓	 <p>(注) θは、最大開口角度（0度から90度）</p>	<p>Aの部分とする。</p> <p>(注) $A = B (1 - \cos \theta)$</p>
引き違い窓 (上げ下げ窓を含む。)	 <p>(注) 1 A及びC=1/2D 2 Aは、50cmの円の内接又は1mの円の内接</p>	<p>A又はB×Cとする。</p> <p>なお、次による寸法の場合は、50cm以上の円が内接するものと同等以上として取り扱うことができる。</p> <p>B=1m (0.65m)以上 C=0.45m (0.4m)以上</p> <p>(注) ()内は、バルコニー等がある場合</p>
外壁面等にバルコニー等がある場合		<p>Aの部分とする。</p> <p>なお、Bは1m以上でてすりの高さは1.2m以下とする。</p> <p>(注) バルコニーの幅員は、概ね60cm以上の場合に限る。これによりがたい場合はCを開口寸法とする。</p>